

花まつり

作詞者 薩摩 忠 (1931 - 2000)。東京都生まれ。慶應義塾大学仏文科卒。第4回室生犀星詩人賞受賞。日本詩人クラブ会員、日本訳詞家協会理事。『蝶の道』ほかの詩集がある。

作曲者 サルディバル (Edmundo P.Zaldívar)。アルゼンチンのブエノスアイレス生まれ。インディオ音楽を研究し、いろいろな楽器を演奏してその普及に努めた。また、アルゼンチン北部の踊りカルナバリートの美しいメロディーに注目し、これを採譜して世に出した。1943年にこの曲を発表した。

編曲者 小森昭宏 (1931 - 2016)。東京都生まれ。作曲家。慶應義塾大学医学部卒。池内友次郎、中村ハマに師事。作品に、「おべんとうばこのうた」、音楽物語『窓際のトットちゃん』などがある。

楽曲解説

カルナバリートの形式の踊り歌である。もともとインカ系の踊り歌ワイノが変形したものといわれている、カルナバリートのリズムによって作られたこの曲は、サルディバルによって発表された後、1953年にフランス語の歌詞がつけられ「花まつり La fête des Fleurs」という題名のシャンソンとして、ティノ・ロッシとイヴェット・ジローによって歌われ大ヒットした。(参考：江波戸 昭著『世界の民謡めぐり』日本書籍)

取り扱い上の要点

- 歌詞を声に出して読んで発音をチェックし、リズムののって歌う。
- 11小節目から同じ音型の繰り返しであるが、F音 - B音の音程を大事に歌うなど、繰り返しの歌い方を工夫する。
- 「諸外国の音楽」(教科書p.148)を参考に、世界各地の音楽を聴いたり演奏したりしながら、人と音楽の関わりについていろいろな角度から考える。

ダニー・ボーイ

作詞者 ウェザリー (Frederick E.Weatherly, 1848 - 1929)。イギリス生まれ。作詞家。

訳詞者 なかにし礼 (1938 -)。満州生まれ。作詞家、作家。歌謡曲の作詞家として活躍。「天使の誘惑」「今日でお別れ」などヒット曲多数。作家としても『長崎ぶらぶら節』(1999)で直木賞を受賞。

編曲者 岩本達明 (1961 -)。神奈川県生まれ。国立音楽大学卒。現在、神奈川県高等学校教諭。

楽曲解説

原曲は、古くから北アイルランドのロンドンデリー州に伝わる民謡で、1855年に初めて民謡収集家が楽譜として出版した。伝承民謡の性格上、歌詞も曲も多くのヴァージョンが存在する。

この「ダニー・ボーイ」は1913年にウェザリーが作詞したもので、独立運動で闘う息子を見送る母親の心情をつづっている。ピング・クロスビー、ハリー・ベラフォンテなど多くの歌手が歌い、世界中で親しまれている。

アウフタクトで始まる同じリズム、同じようなメロディーによる2小節単位のフレーズが、何度も繰り返される。大きく8小節ずつの2部形式だが、冒頭のフレーズのリズムとおおまかなメロディー・ラインは曲全体に一貫している。それでも全体が単調になることなく、前半の低音域での落ちついた曲調から、後半は高音域で感情の高まりを表し、*f*で最高音E音に達するクライマックスを迎えた後は、前半の出だしと同じ「シドレミ…」に戻って平静さを取り戻す。

取り扱い上の要点

- アウフタクトで導音から始まるメロディーなので、音程やリズムをきちんと把握し、フレーズのまとまりを意識して歌う。その際、ブレスの取り方に十分注意すること。
- 後半はドラマティックに、情感を込めて歌う。

(大橋悦子)

原語歌詞の対訳…本書p.72

'O sole mio

作詞者 カプッロ (Giovanni Capurro, 1859 - 1920)。ナポリ生まれ。1896年から日刊紙「ローマ」の編集長として健筆を揮った。

訳詞者 妹尾幸陽 (1891 - 61)。東京都生まれ。本名は妹尾幸次郎。慶應義塾大学中退。東京放送局が開局した当初に洋楽部長を務めた。1915年セノオ音楽出版社を創始し、「セノオ楽譜」の出版を始めた。戦後は太陽音楽出版を主宰していた。

作曲者 カープア (Eduardo di Capua, 1865 - 1917)。ナポリ生まれ。ナポリ音楽院に入学したが数か月しか通わず、ピアノ教師をしたり、小劇場やカフェ、映画館などで演奏しながら生計を立て、かたわらカンツォーネ (ナポレターナ) の作曲に没頭し、ヒット曲を生み出した。この曲の仕上げに協力したマズヅッキ (Alfredo Mazzuchi, 1878 - 1972) は、カープアと同じナポリの音楽家。**ピアノ伴奏編曲者** 森垣桂一 (→本書p.63)

楽曲解説

「マリア・マリ」と並ぶカープアの代表作で、1898年の作品。ピエディグロッタの歌祭りの優勝曲である。毎年9月6日～8日の3日間にはナポリの守護神をたたえる祭りが行われる。この祭りに歌のコンクールが催され、優秀な作品が生まれる。この曲もその一つである。

'O sole mioとは、イタリア語で「私の太陽」の意味。

取り扱い上の要点

- 2/4拍子のゆっくりしたハバネラ調のリズムできていることに注意して歌う。
- イタリア民謡の一つの特徴は、旋律の中にきらびやかな装飾音が随所に出てくることである。この曲でも装飾音の歌い方を工夫する。
- しっかりと発声をし、伸びやかに明るく歌う。原語歌詞の発音、逐語訳、対訳…本書p.73

移調譜 (へ長調) …別冊p.58

Adieu

訳詞者 ファーガスン (Arthur Foxton Ferguson)。詳細不明。

編曲者 ヴォーン・ウィリアムズ (Ralph Vaughan Williams, 1872 - 1958)。イギリス生まれ。作曲家。イギリス民謡や教会音楽の研究に基づいた独特の作風で知られる。九つの交響曲や「グリーンズリーヴスによる幻想曲」「タリスの主題による幻想曲」といった管弦楽曲や弦楽合奏曲、多くの合唱曲などがある。「惑星」で有名なG.ホルストは、王立音楽アカデミー在学中からの親友。

楽曲解説

この英語訳詞と曲のもとになったドイツ民謡「Liebchen, ade (恋人よ、さらば)」は、19世紀初頭に作られたといわれている。その原曲は「ローライ」などで知られるドイツの有名な歌曲作曲家F.ジルヒャー (1789 - 1860) の「男声4部のための民謡集」(1827)に収められている。

また、この歌はドイツの詩人ファラーズレーベン (Hoffmann von Fallersleben, 1798 - 1874) が作詞した別の歌詞でも、広く歌われているという。「Winters Abschied (冬の日よ、さらば)」というタイトルで、寒い冬の日に別れを告げながら、春の喜びを歌った内容。曲は長調で、ワルツやレントラーなどドイツの代表的なダンスの拍子として親しまれている3拍子なので、別れの歌であっても悲壮感はなく、むしろ軽快で親しみやすい。ヴォーン・ウィリアムズによる2重唱の編曲も、掛け合いやハーモニーが美しい。

取り扱い上の要点

●簡素なメロディーと構成からなる曲だけに、強弱や緩急の変化に留意しながら、繊細な表現をめざす。後半、教科書p.53の *pp* からクレシェンドで *f* に至り、すぐに *pp* に戻って *dim. e rall.* で終わる展開は、歌詞の意味も考えながら表現を工夫するとよい。

(大橋悦子)

伴奏譜…別冊p.55